



【横須賀地方総監挨拶】

海将 堂下 哲郎



昨年12月に第44代横須賀地方総監を拝命しました堂下です。横須賀水交會の皆様には、昨年6月5日に締結させて頂きました「家族支援に関する覚書」に基づく緊急登庁支援時の援助活動に関する調整をはじめ、常日頃から温かな御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

横須賀での勤務は、自衛艦隊司令部署幕僚長以来約1年ぶり9回目となります。昭和53年の防衛大学校入校

以来、長い時間を横須賀で過ごして

きましたが、そのほとんどが艦艇部隊での勤務であったため、横須賀の街並みをゆつくりと楽しんだ記憶はあまりありません。横須賀地方総監に着任してからは、地元の方々や協力団体の皆様と交流を深めさせて頂く中、今まで深く知り得なかった横須賀の文化、歴史などに触れる機会に恵まれ、その都度感慨を新たにしています。

前職は舞鶴地方総監ですが、横須賀地方隊は、在日米海軍との連携、砕氷艦「しらせ」による南極観測支援、海外派遣部隊の後方支援といった他総監部にはない特殊な任務を有するほか、その警備区である岩手県から三重県の1都15県には、我が国の政治経済及び日米作戦の中核が所在しており、テロや不法行動への対処などの大きな使命を担っています。私にとりまして、現職は身に余る重責ではありますが、今後とも陸上自

発行 平成28年4月13日  
編集 横須賀水交會事務局

衛隊及び米海軍との基地警備などに関する協同・共同訓練を行い、即応態勢を強化してゆく所存です。

一方、国内において、大規模震災や原子力防災への対処に関する様々な課題がある中、横須賀地方隊の警備区には、我が国の人口の約50パーセントが居住しており、特に、紀伊半島から伊豆半島に至る沿岸部には、東日本大震災を上回る津波被害が予想される多くの地域があります。このため、今後とも首都直下型、東海、東南海、南海など、当警備区に関連する大規模災害に備えて、継続的に警備区内の港湾に艦艇を寄港させるとともに、各地区自治体との防災訓練を中心とした様々な企画を通じ、災害対処の実効性を高めてゆきたいと考えております。

また、海上自衛隊の当面の目標として挙げられている、人的基盤、作戦基盤、そして装備・技術基盤の強化につきましては、それらに共通する「人」の問題について、人的基盤を支える横須賀地方隊の役割は極め

横須賀水交會主要行事予定

平成28年10月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交會ホームページ(<http://y-saikoukai.daa.jp/>)より御確認下さい。

1 練習艦隊入港歓迎行事

(1) 期日 5月6日(金)

(2) 場所 逸見岸壁

2 馬門山海軍墓地墓前祭

(1) 期日 5月14日(土)

(2) 場所 馬門山海軍墓地

3 海軍の碑記念行事

(1) 期日 5月27日(金)

(2) 場所 ヴェルニー公園

4 第32回ゴルフコンペ

(1) 期日 6月10日(金)

(2) 場所 エンゼルC・C

5 靖国神社月例参拝

(1) 期日 6月16日(木)

(2) 場所 靖国神社

6 27年度総会・講演会・懇親会

(1) 期日 6月17日(金)

(2) 場所 よこすか平安閣

7 横須賀夏期防衛講座

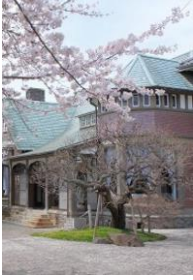
(1) 期日 9月10日(土)

(2) 場所 計画中

て大きいものと認識しております。近年、海上自衛隊では、任務の多様化・長期化、海外任務の常態化が急速に進んできましたが、その一方で、それを支える隊員は、少子化・晩婚化・共働き世帯の増加等により、育児・両親の介護等と仕事の両立に困難を感じ始めており、これを放置すれば、遠からず精強性、即応性を損なう深刻な状況となりかねません。

このため、現職に就任以来「ワークライフバランスの推進」を掲げ、働き方に関する様々な改革等を通じて、仕事と育児、介護等との両立を図り、すべての隊員が仕事と生活の調和を實現し、安心して任務に邁進できる勤務環境の構築に努めており、皆様には、今後とも隊員家族への御支援も含めて、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、横須賀水交会の益々の御発展と会員の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。



【投稿】  
「多国籍部隊の指揮官を経験して」  
第4護衛隊群司令

海将補 伊藤 弘



私は2015年5月末から8月末までの約3か月間、海賊対処にかかると多国籍部隊である第151連合任務部隊司令官として中東のパレーンにおいて勤務しました。活動期間中、海賊対処に関係する他国部隊、関係国際機関等と積極的に調整・連携し、その能力を最も効率的に引き出すことを念頭に任務を遂行しました。そして、日本、韓国、パキスタン等から派遣された艦艇、航空機の協力を得て活動した結果、海賊事象は生起せずソマリア沖アデン湾における海賊行為を抑止することができました。

近年、海賊事象の発生件数は激減しているものの、海賊発生の原因となっているソマリアでは、かつて海

賊行為に関与していた組織が未だ健在であり、同国東岸では、違法操業漁船への罰金と称して漁船を拘束する事象が起こっています。また、国連機関が服役中の海賊に対して実施した聴き取り調査の結果、彼らにとって「各国海軍の存在が最大の抑止となっている」との回答が大多数を占めました。このことから、各国海軍の存在が海賊事象の発生を押さえ込んでいいることを伺い知ることができると思います。

我が国が国際的な海賊対処活動に参加することは、不安定要因をいまだ数多く抱えるソマリア周辺海域の海上安全を確保する上で大きな意義があります。加えて、日本が国際社会の平和と安定に積極的に関与する姿勢を具体的に示すことにもなり、今後当面の間、護衛艦、哨戒機といったアセットのみならず、司令官を始めとするCTF151司令部署員も引き続き派遣することが適当と考えます。



「横須賀市政報告」

市議会議員・幹事 木下 憲司



横須賀市議会第4回定例会（27年12月）からいくつかトピックスを報告します。

① 政府関係機関の地方移転―防大が候補から外れる 政府は昨年12月18日、地方創生総合戦略改定案をとりまとめ、その中で政府関係機関の地方移転候補について、候補機関を絞り込み、具体的検討を進める提案として公表しました。政府関係機関の地方移転は、昨年3月から検討が進められ、当初案では本市に所在する機関として、防衛大学校（走水）、国立特別支援教育総合研究所（野比）、海洋研究開発機構（夏島町）、情報通信研究機構（光の丘）の4機関が候補として挙げられていました。その後、関係省庁及び地方等との検討の結果、移転候補が絞



られて、12月18日に示された改定案では、防衛大学校と国立特別支援教育総合研究所が候補から除外され、海洋研究開発機構と情報通信研究機構が検討対象として残りまし  
た。これらの各機関の地方移転は、本市のまちづくりに多大な影響を及ぼすことから、県、市が一体となつて、地域の実情を訴えてきたところ  
です。候補として残された2機関の市内存続についても、これからも  
国へ訴えて行きます。(市議会は国への9月16日付意見書で、市内所  
在機関の地方移転に反対する意見を提出しました。)



② 戦艦陸奥主砲の移転事業(補正予算) 12月15日、本会議において補正予算を可決しました。

補正予算のうち、戦艦陸奥主砲移転事業費は当初予算680万円のところ、約3900万円を増額補正し、総計約4600万円の事業費となりました。移転事業に先がけて、土質調査、深淺測量の結果、移設先のヴェルニー公園の状態が良好であることが確認できたため、今後の同公園の改修工事及び移送業務費用として増額補正を行ったものです。戦艦陸奥主砲移転事業のスケジュールは、補正予算議決後に無償譲渡契約を締結し、今年8月頃に移転完了、外構工事の完了は今年12月頃を見込んでいます。移転候補地は同公園内のヴェルニー記念館近傍の水際を予定しています。移転完成後は周辺のランドマークになるのではないかと期待されます。



【参加行事等紹介】

1 平成27年度部隊研修

平成27年10月8日(木)、平成27年度横須賀水交会部隊研修を、観艦式のため横須賀から横浜大さん橋へ進出する護衛艦「いずも」の体験航海として実施し、約200名が参加しました。

士官室において中尾横須賀水交会長他、参加各団体の長から齋藤第1護衛隊群司令、吉野いずも艦長に体験航海のお礼を述べた後、ヴェルニー公園からも多くの人が見守る中「いずも」は10時30分横須賀逸見岸壁を出港。海自最新鋭かつ最大護衛艦「いずも」の研修を通じて海上自衛隊第一線部隊の現在について理解を深めるとともに、快晴の東京湾から遠望する横須賀、横浜の景色も満喫するなど、貴重な体験をすることが出来ました。

当日は乗員家族、日米ネービー友好協会、隊友会、自衛隊父兄会等からの参加者も含め総勢約1300名もが乗艦しましたが、参加者一同、広大な飛行甲板や格納庫に驚くばかりで混雑など全く感じることもなく、むしろ「いずも」の巨大さが印象づ

けられる結果となりました。また、海自初装備のSeaRAMや飛行甲板に整列した5機の哨戒ヘリコプター、航空機用昇降機での昇降体験など、体験航海の経験豊富な会員にとっても初物尽くしの興味尽きない体験ができました。さらに、ベイブリッジ下を通過する際には、海上から見上げる景色の珍しさに加え、マストが橋げたにぶつからんばかりの迫力に思わず歓声が上がりました。



横浜港からの出港船待機のため、当初の入港予定時刻から約1時間遅

れての横浜大棧橋横付けとなりましたが、「いずも」の威容に圧倒されたほか、科員食堂等休憩場所の用意や高齢者への配慮、何よりも乗員の皆さんの懇切丁寧な案内と澁刺とした勤務振りに感銘を受けながら体験航海は終了しました。

退艦後は山下町のホテル横浜ガーデンに会場を移し、体験航海参加者による懇親会が開催されました。

会中は中尾会長の挨拶及び乾杯の音頭で幕を開け、体験航海の余韻に浸りつつ1護群司令部後方幕僚、いずも応急長等、現役幹部との会話にも花を咲かせたほか、ジャンケンゲームに航海の疲労も忘れて盛り上がり、参加者全員大満足のうち道家副会長の締めで長時間の部隊研修は成功裏に幕を閉じました。

今回の部隊研修は、観艦式準備の多忙な時期にもかかわらず「いずも」以下関係各部の御配慮により実現したものであり、横須賀水交会として海上自衛隊支援の決意を心新たに新たな有意義な一日でした。

研修実現に御尽力頂いた関係各位に改めて深く感謝申し上げます。

(乳井三治幹事記)



2 第31回横須賀水交会主催 ゴルフコンペ

平成27年11月13日(金)、第31回横須賀水交会主催ゴルフコンペを千葉房総半島の鹿野山ゴルフ倶楽部にて開催しました。

当日は、スタートから曇りベースで、やや風が強かったものの後半には弱まり、プレイには全く影響ありませんでした。

参加者は中尾会長以下47名、12組と冬場のため、前回より若干参加者が、少なかったものの初参加者もあり、ゴルフ愛好者が、にぎやかに楽しくプレイをすることができました。

競技は従来どおり新ペリア方式で実施しました。ただし、同じ人が入賞しないように過去3回のコンペで1、2、3位に入賞した方は、新ペリア方式で出てきたハンディキャップからそれぞれ30、20、10%を減点することになっています。この減点は3回コンペに参加しないと消えません。

今回は、熊谷博之氏が、グロス80、ハンディキャップ8.4、ネット71.6で優勝、2位には田内浩氏(92、19.2、72.8)が、そして3位は古閑宣仁氏(85、12.0、73.0)がそれぞれ受賞という成績でした。

今回優勝の熊谷氏は副賞のキャディバックを獲得し大喜びでした。



また、ベストグロス賞には、ジュニアの部では斉藤進氏がグロス79で、ベストグロス賞ウーマンには、今回のコンペで紅一点の斉藤浩子氏がグロ

ス104で、シニアの部では斉藤等氏がグロス80で受賞されました。

水交会主催コンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交会会員のみなならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交会の活動に理解を深めていただければ幸いです。またこの中から水交会に入会していただければこのコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。

たくさんの方に声をかけて参加者を更に増やしていただくよう今後ともご協力の程よろしく願います

(吉岡俊一幹事 記)





3 砕氷艦「しらせ」出港見送り

平成27年11月16日午前、砕氷艦「しらせ」(艦長 大鋸寿宣1等海佐 乗員180名)は、第57次南極観測隊の隊員と物資輸送等の支援協力にあたるため、大勢の家族や関係者が見守る中、横須賀逸見岸壁を出港し、南極の昭和基地へ向けた約5か月間の航海に出ました。

この日、逸見岸壁には約700名の乗員家族や関係者が早朝から見送りに訪れました。横須賀水交會からは、道家副会長、泉企画総括以下約20名の会員が参加しました。



出国行事は10時30分から始まり、

武居海幕長、統幕長代理の山崎統幕副長に対する栄誉礼の後、大鋸艦長が統幕副長に出港報告を行いました。続いて、山崎統幕副長が河野統幕長の訓示を代読し、「南極観測地域観測業務の発展に直接寄与できるように誇りを持ち、任務に邁進してもらいたい。」と訓示。その後、武居海幕長は壮行の辞で「重要な研究が佳境を迎えようとしており、「しらせ」の活動意義は一段と高まっている。能力を最大限に発揮することを期待する。来年には乗員そろって元気な姿で帰国することを祈念している。」と激励し、出国行事を終えました。

横須賀音楽隊が軍艦マーチを奏でる中、午前11時「しらせ」は静かに岸壁を離れ出港しました。曲が「蛍の光」に変わると「しらせ」と岸壁で「帽振れ」が行われ別れを惜しましました。

「しらせ」は、12月2日から6日までオーストラリア フリーマントルに寄港。12月3日に第57次観測隊員64名が乗艦します。フリーマントルを出港後は各種観測支援を実施しつつ、12月12日に南緯55度の南極

圏に入り、リュツォ・ホルム湾経由昭和基地へ向かう予定です。昭和基地では基地設営や野外観測支援を実施し、本年2月27日の越冬隊交代式を終え、第56次越冬隊員らに乗せ3月上旬昭和基地を出港。復路はオーストラリア シドニーに3月24日に入港し、26日に観測隊員が退艦、29日シドニーを出港したのち一路北上、4月14日に帰国する予定です。



なお、今次行動には医官1名を含む10名の女性自衛官が乗艦していますが、女性自衛官の乗員は初めてのことです。

総行動日数151日、南極行動日数99日、総航程約2万マイルの長期行動であり、かつ南極という極寒の地での単艦任務。大いなる成果を上げ、「しらせ」の無事の帰国を祈ります

(松本幸一郎幹事記)



「しらせ」は、3月6日、南極沖で孤立していたオーストラリア政府の砕氷船「オーロラ・オーストラリス」の観測隊員ら66人をモーンソン基地から無事救出した。

(編集担当追記)

4 平成28年横須賀防衛団体

賀詞交歓會

1月16日(土)午後、横須賀地区の防衛関係者にとりましては新年の幕開け行事ともなっております「平成28年横須賀防衛団体賀詞交歓會」が横須賀商工会議所多目的ホールにおいて開催されました。

本會は、防衛関連の9団体(※)が共催し、横須賀地区に在籍する陸・海・空自衛隊の部隊指揮官・先任伍長、横須賀市長等を招いて新春の賀詞を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体、会員相互の親睦を図ることを目的に毎年実施しているものです。当日は天気にも恵まれ、来賓を含め約300名の皆様が参加され、盛大に実施することが出来ました。



さて、賀詞交歓會は、国歌斉唱、共催団体代表者の紹介、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協會会長の挨拶、来賓を代表して堂下哲郎横須賀地方総監と吉田雄人横須賀市長の祝辞、来賓紹介、祝電披露、鏡開きの順で行いました。

来賓紹介では浅尾慶一郎衆議院議員、小泉進次郎衆議院議員、宇都隆史参議院議員から力強いご挨拶を頂きました。他、神奈川県議会議員・横須賀市議会議員・葉山町長・葉山町議會議員の皆様が多数参加されました。

引き続き、鏡開きでは各界を代表する13名の皆様が2組に分かれ2つの四斗樽を参加者全員の「ヨイショ」の掛け声に合せ、見事に叩き割り、最高の盛り上がりの時を迎えました

その後、國分良成防衛大学校校長の発声により乾杯が行われ、以後、懇談の時間となりました。会場内のあちらこちらで陸上・海上・航空自衛官、ご来賓、自衛隊OB、各団体会員等が和気藹々と懇談する姿が見受けられ、当初の目的である親睦を十分に図ることができました。



楽しい時はあっという間に過ぎ、最後に西川公康陸上自衛隊通信学校長兼久里浜駐屯地司令の万歳三唱により平成28年度の賀詞交歓會はお開きとなりました。

(宮崎道夫幹事 記)



※ 横須賀防衛協會、隊友會横須賀支部、横須賀水交會、横須賀曹友會、三笠保存會、自衛隊父兄會三浦半島地区會、三浦半島募集相談員會、横須賀海交會及び桜遊會



## 【トピックス】

## 1 第2回幹事会

平成27年12月16日(水)、横須賀地方総監部厚生センター2F談話室において平成27年度第2回幹事会が行われ、顧問以下約40名が参加しました。

幹事会では27年9月以降に実施された活動として「部隊研修(体験航海)」及び「第31回横須賀水交會主催ゴルフコンペ」についての報告とこれから年度内に至るまでの間に実施賀詞される予定の行事である「合同交歓会」と「靖国神社月例参拝」の実施要領等並びに「ファミリーサポート活動状況」について、それぞれの担当幹事から説明がありました。

「部隊研修」に関しては、観艦式実施年度の部隊研修は今後も進出時の体験航海を実施する方向で検討し、来年度計画については別途検討すること、また「ゴルフコンペ」については、これまでの繰越金使用によるコンペ運営が可能な間は、2万円の行事支援金を中断することとされました。

次に実施予定の行事として、まず「合同賀詞交歓会」に関しては、主

幹事である隊友会横須賀支部から役員派出が要請されているため、参加

予定者の中から別途個別調整することとなりました。「靖国神社月例参拝」に関しては、最近参加者数が若干右下がりの傾向であることから、次回(平成28年2月18日)は多くの参加を期待する旨の発言がありました。

「ファミリーサポート活動状況」に関しては、未だサポート会員登録数が足りない状況が報告されました。質疑においては「会員登録は、預かれるか否かを心配するよりも、現職との交流の場という参加意識が重要」という意見がだされ、水交會役員の登録及びさらなる会員への勧誘活動を実施してゆくことが確認されました。

休憩を挟み、「幹事会終了後の懇親会への一般会員の参加について」が提議され、一般会員の方の参加を了承することと、それに伴う案内方法等、細部実施要領について次回常務幹事会に諮った上で発動することとされました。また、来春(平成28年3月14日〜15日)に計画されている「早春の薩摩ツアー」には26名の

参加予定があることが担当幹事から報告されました。

いずれの案件についても、参会者から今後の活動も視野に入れた活発な意見がだされ、熱の帯びた討論が実施されました。



会議終了後、よこすか平安閣に場所を移し忘年会を兼ねた懇親会が実施されました。

野口総務幹事の司会の下、中尾会長の挨拶、田神横須賀市副市長と中西横須賀地方総監部幕僚長の挨拶、ご来賓の方々の紹介、小泉衆議院議員等からの祝電披露の後、松崎顧問

の音頭で乾杯を行い、懇談に入りました。忘年会を兼ねた会は大いに盛り上がりましたが、海野顧問の中締めの乾杯をもって盛会の内に終了しました。



2 靖国神社等月例参拝

2月18日(木) 恒例の靖国神社等月例参拝を実施しました。

水交會の月例参拝は、旧海軍及び海自OBを主体に行われていますが、今回、旧海軍出身者は、兵学校73期の佐藤 精一氏以下、甲飛會、兵学校74期のご遺族方々10名、海自OBは、幹候4期の興世田 勉氏以下クラス代表26名、その他有志会員2名、電子會1名及び水交會本部6名の合計44名でした。更に、横須賀水交會からの参加者に加え、60名の大人数の参拝となりました。

今回の特徴は女性陣を中心とした有志グループ4名が参加されたことです。



横須賀水交會については、一昨年は27名、7月は32名と多人数でしたが、昨年は2月10名、6月14名、今回はクラス代表も兼ねて21名ほど横ばいとなっています。その中で、初参加者が5名もあつたことは明るい話題です。今後も積極的な参加を是非呼びかけていきたいと思ひます。

次回は、6月16日(木)です。月例参拝の参加及び初回参加者のお誘い、皆様のご理解とご協力を今後ともよろしく願ひいたします。

当日は天気にも恵まれ暖かい一日でした。靖国神社では宮司から、兵学校73期の佐藤氏の元氣な姿を見見し、心強く思うとの挨拶から始まり、靖国神社御創立百五十年記念事業についての紹介がありました。本事業は、平成31年に御創立百五十年の節目を迎えるにあたり、平成28年1月1日から実施するものだそうです。本殿については、平成元年に「昭和の大修築」がなされましたが、本事業では、殿内の冷暖房とバリアフリー化を施して、高齢の方等多くの方々が、正式参拝しやすい環境に整えるそうです。また、「靖国会館内装改修・休憩所設置工事」、「外苑

整備工事」も行い、利用者の利便性を図り、「慰霊」と「憩い」の空間を造成するそうです。靖国神社は桜で有名ですが、その桜も高齢化となつたので、樹木、遊歩道の整備も合わせて行おうそうです。楽しみですね。



千鳥が淵では墓苑奉仕會から、最近の慰霊参拝、硫黄島遺骨収集等の状況説明があり、遺骨収集から受領、検査、DNA鑑定が行われた後、遺族や墓苑に納められることの説明がなされました。遺骨収集団員には積極的に参加した若い人もいるのとこの事です。

奉仕會からの説明の後、各自、生花を手向けてお祈りをしました。

続いて向かった、防衛省慰霊碑

では、海幕総務課長、わだつみの會會長に迎ええられ、幹候4期の先輩が代表して献花し、慰霊参拝を行いました。

その後、水交會本部に移動し、直會が行われました。目の前の紅白の梅が咲く池の風情を愛でながら、松崎顧問の挨拶に頂き、献杯から直會が始まりました。

信兼監査幹事から靖国神社に祀られている「塚事件(1868年(慶応4年)3月8日、王政復古直後に起きた土佐藩士によるフランス帝国水兵殺生事件)泉州塚事件とも呼ばれる。」について、紹介があり、切腹で見せる厳しさに、立ち会っていた





フランスの艦長は、フランス人の被害者数と同じ11人が切腹したところで中止を要請させたという日本人の気迫を紹介いただきました。この事件につきましては、森鷗外、司馬遼太郎等の著作があります。

更に、松崎顧問から、幕末から日米安保までを勉強するための良い資料として「新生日本外交百年史、東京日々新聞社、昭和27年」の紹介がありました。



担当幹事からは、元ニューヨークタイムズ東京支局長で、三島由紀夫と深い親交のあったヘンリー・ストークスが2013年11月6日に憲政記念館にて、大東亜会議70周年記念大会で講演した「日本はアジアの希望の光だ」の紹介がありました。

この間参加者から紹介や意見が活発に続き、歴史への興味を掻き立てられる貴重な夕べとなったことから、いつもより少し遅くなりました。道家副会長の閉めの挨拶で6月にまた参拝しようとお言葉を頂き、夜店の夜景に平安の今日を感謝しながら家路に向かいました。

### 3 第3回 横須賀水交會幹事会

3月9日(水)、横須賀市総合福祉会館5階第2研修室において平成27年度第3回幹事会が行われ、顧問以下約50名が参加しました。

幹事会の議題としては、まず「平成28年度横須賀水交會総会について」です。6月に実施する総会の基本計画とその審議事項の内容である「平成27年度活動報告・収支決算報告」、「平成28年度活動報告・収支予算(案)」及び「平成28年度役員(案)」について審議されました。

次の議題としては「実施行事の結果」として1月に実施された「合同賀詞交歓会」と2月に実施された「靖国神社参拝」の成果等について担当役員からの報告がありました。

「合同賀詞交歓会」は、来年は横

須賀水交會が主幹事であることから、本年の実施結果を踏まえて、しっかりと準備することが確認されました。また「靖国神社参拝」は、今回は新規参加者が5名という良かった面もあるものの、大半の参加者が会長以下役員であったということで、今後益々参加者の輪を広げていく方向で努力することが確認されました。

3番目の議題として今後の実施予定の行事、すなわち「馬門山海軍墓地墓前祭」、「海軍の碑記念行事」、「練習艦隊激励行事」に関する実施計画の概要等が担当役員から説明がありました。「海軍の碑記念行事」は、例年、当該行事に引き続いて「三笠」で実施されている記念行事との時間差が少なすぎることを踏まえて、今年は例年よりも開始時刻を30分繰り上げて実施することとされました。

4番目の議題である「ファミリーサポート活動状況」については、総監部における説明会の紹介や今後の予定についての担当幹事からの説明の他、役員の登録及び一般会員への勧誘活動の強化を実施してゆくことが確認されました。

その他の議題としては、昨年12月の幹事会において承認された「幹事会懇親会への一般会員の参加」に関する周知方法及び、「有志会員部隊研修の実施」について、それぞれ担当役員から検討状況の説明がありました。これらの案件は、いずれも会員活動の動機づけに資する、意義のある事業と位置付けられるため、早期に具現化することが確認されました。

最後に3月中旬に計画されている早春の薩摩ツアーの実施概要について担当役員からの紹介がありました。担当者は準備段階で様々な苦労をされている様子でしたが、第1航空群殿の協力も得て、充実した内容の旅となることが予感されるものでした。

いずれの案件についても、参加者から今後の活動も視野に入れた活発な意見が出され、熱の帯びた討論が実施されました。

幹事会終了後、「よこすか平安閣」に場所を移し懇親会が実施されました。野口総務幹事の司会の下、中尾会長の挨拶の後、来賓として横須賀地方総監代理中西正人幕僚長のご挨拶は、昨今の海上自衛隊における

様々な話題と共に、隊員の留守家族支援問題に関する横須賀水交會の取り組みに関し、横監として感謝している旨のお話をいただきました。

その後、来賓の木下憲司横須賀市議、梶元大介横監管理部長、香月信一横地隊先任伍長の紹介と続き、福田顧問の音頭で乾杯を行い、懇談に入りました。以降いつもの如く大いに盛り上がりましたが、道家副会長の中締め乾杯をもって盛会の内に終了しました。

【お知らせ】

1 ファミリーサポートセンター

会員の募集

横須賀水交會ではファミリーサポートセンターの会員を募集しております。詳細は横須賀水交會ホームページをご覧ください。趣旨に賛同される方は次の担当常務幹事のいずれかにご連絡ください。皆様の連絡をお待ちしております。

- 加藤保幹事：090-4248-4829
- 山口透幹事：090-1694-2690
- 高橋進幹事：080-5083-2933

2 幹事会終了後の懇親会に参加してみませんか！

横須賀水交會では9月、12月及び3月に幹事会を開催しており、終了後には自衛官等をお招きして懇親会(夕食会形式)を実施しております。平成28年度からはこの懇親会に役員以外の会員の皆様にもご参加いただきたいと考えております。これまで会員同士の交流機会が総会や賀詞交歓会などに限られていたことを解消するための試みですので、ふるってご参加ください。

開催日や懇親会会場、費用等につきましては、開催日の概ね1か月前に横須賀水交會ホームページ(当面の活動予定欄)に掲載いたしますので、参加を希望される会員はお手数ですがお葉書にて事務局までお申し込みください。

なお会場準備の都合もありますので、申し込み及び変更につきましては開催日の10日前までに完了して頂くようお願いいたします。

- 葉書宛先：〒237-0046
- 横須賀市西逸見1
- 横須賀地方総監部付
- 横須賀水交會事務局宛

記載事項…参加される方の氏名、会員番号、連絡先

叙勲受章者

次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称略)

秋の叙勲

- 瑞宝小綬章 井上 保勝
- 小田倉 光伸
- 山本 角八郎

訃報

昨年11月本紙発行以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。(敬称略)

- 常廣 栄一 平成27年10月31日
  - 小川 一男 平成27年11月10日
  - 宇都 睦雄 平成28年1月29日
  - 玉川 尚男 平成28年2月19日
  - 松原 研二 平成28年3月12日
- (本多一雄事務局長記)

新(編入)会員

(27年10月〜28年2月)  
次の方々横須賀水交會に新たに入会(編入)されました。(敬称略)  
菊地 順子(有志) 角南 晃生(有)

- 志) 加藤 志信(有志) 西山 中庸(幹候81) 岩瀬 健(有志)
  - 新村 祐司(有志) 小山 祥子(有志)
  - 志) 小西 正明(有志) 菊池 正通(有志) 梶清 将(有志) 岸野 滋(有志) 佐藤 壽紀(幹候82)
  - 川口 裕史(幹候84) 岩下 寛(有志) 野口 元(有志) 池田 英司(有志) 徳納 則雄(幹候82)
  - 下園 輝昭(幹候82) 瀧川 友子(有志) 鈴木 典之(部内91)
  - 瀧 佳久(有志) 森本 栄一(有志) 長井 至幸(幹候60)
  - 五十嵐 陽子(有志)
  - 小島 昌二(幹候83) 海沼 秀幸(有志) 田尻 裕昭(幹候83)
- (高橋陽一幹事 記)

【編集後記】

この度、宮崎幹事から編集を引き継ぐ事になりました石井です。紙面の充実を図るためには会員の皆様のご協力が不可欠ですので、今後とも積極的な投稿をよろしくお願いいたします。

(編集担当 石井)